

第10回

[日 時] 平成26年11月15日（土）18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学 5号館 3階学生ホール

[テーマ] 一期一会

[講 師] 石田 邦子 氏（表千家教授）

[活動内容詳細]

塾長挨拶



北原照久氏の「人生を変える魔法の言葉」を引用し、担任の先生から思いもかけない褒め言葉をいただき発奮し「やればできる」という自信を身に付けたこと。その原動力となった言葉の持つ力の大きさを実感するようになった。「絶対に人の悪口を言わない」ということを信条として、「感謝」「有り難う」を口ずさむ北原氏の生き方を塾生に問いかけました。（参考：『耕人』第8号）

講話「一期一会」

講師 石田 邦子 氏（表千家教授）



1 茶道体験【60分】

(1) 茶道のお点前披露



塾生はじめ参観者すべてが、静かに見入っていた。先生のお話も静かに聞き入り、一言一言を大切に聞き入った。「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「もう一服いかがでしょうか」「十分頂戴いたしました」といった言葉を復唱するときも、全員大きな声で揃えて復唱した。飲み終わったときに口をつけたところを指でふき、紙で指をふくことや畳に座るときの位置、1畳を何歩で歩くかといった動作の意味や仕方についても学んだ。

(2) お茶を飲む（塾生・保護者・指導者すべてが体験）



茶道体験は、講師の先生に一通りの説明をしていただいた後はじめられた。実際に、お茶の体験する場面では、教えていただいたことに気を付けて、一つ一つの動作に心を込めて行った。みんな気を引き締めて緊張しているように見えた。

2 講話「一期一会」【20分】

世界にない独特な日本文化として、「お先に」という言葉がある。物を受け取ったり、乗り森に乗ったりするときに、自分が先に物事を行う時に使う言葉である。他国にはない言葉で、日本人が長い時間をかけて構築してきた文化であり、人間関係を円滑にしていくための気遣いともとれる。

茶道は衣食住すべてに関わっている。茶道をするにあたって、料理も塗り物も焼き物も書も、その空間に関わる全てを勉強しなければならない。使用する茶碗には、形状・色・製作者の特徴など違いがたくさんあり、二つとして同じものは存在しない。そのため、茶を飲む前にまず茶碗を心行くまで拝見する。何故なら、その茶碗とは二度と会えないかもしれないからだ。それは、人との関係でも同じことが言える。色紙や花などすべてが合わさったその空間は、その瞬間にしかない。同じ空間を再現すること

はできない。ここから、「一期一会」という言葉が生まれた。その時を大切に、その時を過ぎてよかったという思いを心に収める。

【記録をとった大学生の感想】

- ・日本文化とは、『ヒトやモノなど、すべてのものとのかかわりを大切にする文化』なのかも知れない。
- ・「空間を創り上げる一つ一つの要素は、その一瞬一瞬で違うものである。」という考え方。そこから、「一期一会」という言葉が出てきたことを初めて知り、鳥肌が立ちました。人との出会いだけでなく、空間との出会いをも大切にしていきたいと思いました。

3 班別討議【10分】

- (1) 講師が伝えたかったことについて班別討議
- (2) 班としてのまとめ・発表準備

「一期一会」について、各班で交流し合い、自分の考えをまとめていった。

4 全体学習【10分】



全体発表の中でも出たキーワードは、「一期一会」「お先に」などであった。感じ方・受け止め方には個人差があり、中には、日本文化を世界に広めたいと志す者も現れるほどであった。来月で最終回を迎えることはあるが、塾生の態度・学ぶ姿勢は、今まで以上の真剣さを感じた。

5 次回予告【10分】

- (1) 平成26年度のまとめと発表に向けて
- (2) 第3期修了証授与について

メニュー

ホーム

耕人塾の活動

令和2年度の活動

令和元年度の活動

平成30年度の活動

平成29年度の活動

平成28年度の活動

平成27年度の活動

平成26年度の活動

第1回

第2回

第3回

第4-5回

第6-7回

第8回

第9回

第10回

第11回

平成25年度の活動



平成24年度の活動

報道・受賞